

〈実践報告〉

クラシック音楽を用いた絵本の上演2 — 絵本の音楽会より『ブレーメンの音楽隊』 —

疇 地 希 美
嶋 田 ひろみ
山 本 八千代
吉 村 雅 美

要約

この論文は〈みらい堂〉が2018年5月19日午後に行われた「ing設立25周年 ingハウスここから4周年 お祝いと感謝の集い」における絵本の音楽会で上演した『ブレーメンの音楽隊』について、その詳細をまとめたものである。

〈みらい堂〉は筆者四人による音楽集団で、これまで親子向けのプログラムを作り音楽会を行ってきたが、『ブレーメンの音楽隊』では初めて成人を対象として作品選び、選曲、楽曲の編集、ボランティア演奏を行った。絵本は子どもを対象としたものだと捉えられがちだが、この音楽会でのクラシック音楽を用いた絵本の上演は30代から80代までの幅広い観客にも好評であった。アンケートには「新鮮だった」、「童心に返った」などの好意的な感想が見られた。このプログラムを様々な人が再演できるよう楽譜に起こし、編曲やアレンジ、演奏上の注意点などと合わせて記録した。また、アンケートの結果と合わせ、クラシック音楽を伴う絵本の朗読が大人を対象とした音楽会においても鑑賞に耐え得るものであることを確認した。

キーワード：絵本、音楽会、クラシック音楽、大人対象

1. はじめに

筆者らは〈みらい堂〉として、これまで乳幼児や親子を対象とした絵本の音楽会を上演してきた。様々な絵本にクラシック音楽をつけて上演するこの活動は、普段クラシック音楽に馴染みのない幼い子どもや保護者たちに、音楽に参加し楽しめる機会を作ることを目的として行ってきた。この音楽会では大型絵本を利用するため、定員20～40名程度の小さな会場を使用することから、演奏者と観客の距離が一般的なコンサートホールよりも近くなり、一体感を生みやすい。また生の音楽演奏であることから、臨場感を味わうことができ、普段見ることのない楽器や生の演奏を目の前で聴く機会となっている。これまでの音楽会では乳幼児も絵本の世界に没頭し、集中して音楽と読み聞かせに聴き入る様子が確認されている（疇地ほか、2018；嶋田・疇地、2013）。絵本の読み聞かせにクラシック音楽を合わせることによって、登場人物への感情移入、物語の情景を思い浮かべやすくする、などストーリーの理解を深めることが出来ると考えられる。

これまでの音楽会では、未就園児向け、園児向け、親子向け等、観客の層に合わせた絵本を選び、その絵本の世界観を表現するのに相応しい曲を選んだ。一冊の絵本として作品に統一感を持たせるため、(1)作品集や組曲を使用する、(2)一人の作曲家の曲でまとめる、(3)同じ国の作曲家の曲でまとめる等の手法を取った。さらに曲のどの部分を使うかについては、(1)印象的な部分を使う、(2)登場人物にテーマ曲（音）を持たせる、(3)音楽部分が長過ぎないようにまとめる、(4)より効果的な場面で使う等の工夫をした。特にまだ言葉をあまり理解出来ない子どもたちに、音楽や音を使っていかに絵本の世界観を伝えるかという事に留意しプログラムを作製した。

その結果、上演中は保護者だけでなく乳幼児も絵本に見入り、演奏に集中して聴く様子が見られた。楽器を奏でたり、ページをめくったり等、演奏者の体に動きのある場所では特に、乳児も注視していた。これらのことから絵

本にクラシック音楽を合わせることで相乗効果生まれ、普段馴染みのないクラシック音楽を受け入れやすくなり、親しむ事が出来ると考えられる。

今回初めて、みらい堂は大人を対象とした絵本の音楽会のプログラムの作成と演奏を行った。これは、NPO法人ingからの「ing設立25周年 ingハウスここから4周年 お祝いと感謝の集い」でのボランティア演奏依頼によるものである。NPO法人ingは「どう生き、どう老いて、どう死にゆくのか」というテーマから導き出された「尊厳」と「生きがい」というキーワードを元に様々な活動を行っている（ingハウスここからホームページ、ing設立25周年ingハウスここから4周年お祝いと感謝の集い、npoing.web.fc2.com/2018kokokara.pdf、閲覧日 2018年6月13日）。今年はこの法人の活動拠点である「ingハウスここから」が4周年を迎え、NPO法人25周年と合わせてお祝いと感謝の会が開催された。

みらい堂はこれまでもingハウスここからで親子向けの絵本の音楽会を上演してきたことからボランティア演奏を依頼された。「お祝いと感謝の集い」が開催される土曜午後は、通常「元気カフェ」という高齢者が集まる時間帯であることから、会の参加者も同層が多いであろうことが予想された。そこで上演作品の選考にあたり、高齢者の鑑賞に耐えうるもの、NPO法人の活動理念に合致するものとした。参加者が大人であることから、普段子どもの集中力を考慮し10分程度としている上演時間を20分程度とした。言葉の量も子ども向け作品の2倍～3倍程度と考え、さらに「尊厳」「生きがい」というキーワードから、年老いた動物たちが新たな生きがいを見つけるという内容の『ブレーメンの音楽隊』を選んだ。

この演奏会では、題材となる絵本と上演時間以外は子ども向け絵本の音楽会と同じ手法を用いてプログラムの作成、音楽の編曲、演奏を行った。演奏時の観客の様子と演奏後のアンケートの結果から、クラシック音楽を伴う絵本の朗読が大人を対象とした音楽会においても鑑賞に耐え得るものであることを検討する。

2. 演奏の手順

2.1. 絵本について

グリム童話の『ブレーメンの音楽隊』は日本でも親しまれており、様々な訳や絵により絵本が出版されている。今回はハンス・フィッシャー絵、せたていじ訳による『ブレーメンの音楽隊』（福音館書店、1964/2017）を用いた。この版は「世界傑作絵本シリーズ」と銘打たれており、作画のフィッシャーは『こねこのピッチ』『長ぐつをはいたねこ』など長く愛されている絵本を手がけている。観客の想像力をより働かせる効果を狙い、フィッシャーによる躍動感にあふれる絵が魅力的なこの版を選択した。

この版には大型絵本が出版されていなかったため、各ページの拡大カラーコピーをA3サイズのスケッチブックへ貼り付け大型絵本として製作したものを音楽会では提示した。今回はボランティア演奏であったため、出版社への二次利用許可は申請しなかった。

この物語は、年老いて仕事ができなくなり、厄介者扱いされていたろば、いぬ、ねこ、おんどりの4匹が、音楽隊にいれてもらおうとブレーメンの街を目指すというあらすじである。NPO法人ingがキーワードとして掲げている「尊厳」「生きがい」に当てはまることからこの絵本を演目として選択した。

2.2. 使用楽曲について

『ブレーメンの音楽隊』の舞台がドイツであることから、同国出身の作曲家であるベートーヴェン（1770-1827）の作品を用いた。使用楽曲は以下の通りである。

- ・《トルコ行進曲》（ベートーヴェン＝ルビンシュタイン、トルコ行進曲 Op.113-4《アテネの廃墟》から）

クラシック音楽を用いた絵本の上演2

- ・交響曲第5番ハ短調《運命》Op.67第1楽章
- ・ヴァイオリンソナタ第5番ヘ長調《スプリングソナタ》Op.24
- ・ピアノソナタ第8番ハ短調《悲愴》Op.13 第1楽章、第2楽章
- ・ピアノソナタ第14番嬰ハ短調《月光》Op.27-2 第3楽章
- ・交響曲第9番ニ短調《合唱付き》Op.125 第4楽章

《トルコ行進曲》は冒頭に現れるメインテーマを、動物たちが進んで行く場面で主に使用した。またこの曲の短調のメロディーを抜粋して動物たちが気落ちする場面で使用した。《運命》第1楽章のテーマは動物たちがショックを受ける場面で、《スプリングソナタ》は動物たちが意気揚々とプレーメンへ旅立つ場面で、ピアノソナタ《悲愴》の第2楽章は夜の静かな場面で、同曲第1楽章は泥棒が忍び込んで大騒動になる場面で、ピアノソナタ《月光》第3楽章は場面転換で、交響曲第9番《合唱付き》第4楽章のテーマは動物たちが平和に暮らす場面でそれぞれ使用した。

選曲については以下の点に留意した。

- ・普段クラシック音楽に慣れ親しんでいない観客であることも予想されたため、有名曲を中心に選曲する。
- ・曲の中の特に有名な部分、印象的な部分を使用する。
- ・4匹の動物がそれぞれ登場する場面では、同じ曲をそれぞれの動物のキャラクターに合わせてアレンジしたものを使用し、作品に一体感を与えるとともに、動物のキャラクターの違いを表現する。
- ・静かな曲、元気な曲、テンポが速い曲、テンポが遅い曲など、様々な特徴の曲を使用する。

楽譜は主にパブリックドメインのものをIMSPLEペトルッチ楽譜ライブラリー (https://imslp.org/wiki/Main_Page) からダウンロードし使用した。

ただし、《トルコ行進曲》については、日本でピアノ曲として慣れ親しまれている編曲版がアップロードされていなかったため、ヤマハ楽譜出版の物を使用した。

2.3. 使用楽器

上演に際し、ピアノを主に使用した。その他の楽器は登場する動物の個性を引き立てる音を重視し、ろばにカホン、いぬにトイホーン（バルブホーン、パフパフラッパ）、ねこにミニ鉄琴、おんどりに鍵盤リコーダー（SUZUKI、andes25F）を選択した。一つの楽器をその動物が登場するたびに繰り返し使用することで、物語の進行を理解しやすくした。その他、情景を表す場面にはチェロも使用した。使用楽器は以下に示す。

- ・ピアノ（YAMAHA、P-120）
- ・カホン（MINEL）
- ・トイホーン（バルブホーン、パフパフラッパ）
- ・鉄琴（SUZUKI、ミニグロッケンソプラノMSC-13）
- ・鍵盤リコーダー（SUZUKI、andes25F）
- ・チェロ

2.4. 役割分担

音楽の演奏に3人、演出に1人の4人体制で上演した。以下、演者ごとの担当楽器を示す。

演者1：絵本読み、大型絵本めくり、カホン、トイホーン

演者2：ピアノ

演者3：チェロ、鉄琴、鍵盤リコーダー（以下、アンデス又はandesと表記する）

2.5. 上演における注意事項

音楽とお話し（朗読）の関わり方、言葉と音のタイミングについて次のように注意した。

朗読や絵本の読み聞かせて音楽や効果音を付けるのは（1）ろば、いぬ、ねこ、おんどりがそれぞれ登場、行動する場合、（2）場面が転換する場合、（3）場面の状況を表す場合、（4）登場人物の感情を表す場合に分類される。それぞれどの部分に音楽・効果音を付けるかを明確にし、言葉と音楽の相乗効果で聴き手により深く伝わるようにした。また、ろば、いぬ、ねこ、おんどりはそれぞれ決まった楽器の音を当て、どの動物が登場、行動しているのか分かりやすくした。

既存のクラシック音楽と絵本を組み合わせているので、音楽が主役になる場面も作るようにした。今回の上演は全てベートーヴェンの曲を使用しているが、それぞれの曲自体が有名だけでなく、曲のモチーフやテーマとなる短いフレーズのみを取り出しても印象的かつ魅力を持っている。そのため、可能な限り原曲に近い形で音楽を聴かせるようにし、また印象的なフレーズを繰り返し使うことで、場面の進行や情景、心理描写を効果的に表現し、聴き手により深く伝わるようにした。

読み手も音楽・効果音もマイクやアンプなどの拡声装置を使用しないため音量のバランスを取るのが難しい。そのため、言葉と音楽・効果音の音量調節が重要となる。言葉の聴き取り易さを重視した場合、言葉と楽器の音が重なる部分は極力避ける必要がある。ただし、場面によっては楽器の音量を抑えながらあえて音楽と言葉と重ね、登場人物の心情や場面の雰囲気伝える効果を出すこともできる。また、言葉と音楽・効果音が繰り返し交互に使われる場面も多い。その場合、言葉と音楽・効果音の時間差を工夫し、時間の流れの緩急や緊迫感、高揚感といった情景、心情を聴き手に訴えかけるよう留意した。

今回の上演は中高年の大人対象ということで、上演時間を子ども向け作品の倍の20分程度とした。

3. 楽譜

3.1. 記譜上のルール

記譜に際し、これまで作製して来た子ども向け作品と同じルールを用いた（疇地ら、2018）。

そのルールを以下に示す。

（1）通常の楽譜と同じように左から右側へ音楽が進み、同時に進行するパートは譜表線等で繋いで表示する。

（2）原曲の楽譜から変更がない場合は、原曲ママと示し楽譜は記載しない。この論文に記載されている楽譜はみらい堂によりアレンジした部分のみである。

（3）演奏に関する注意事項は括弧の中に記す。

（4）楽譜上のページ数は、福音館書店により出版された絵本にみらい堂で便宜的に付したものである。物語の本編が始まる見開きページの左側を1ページ目とした。

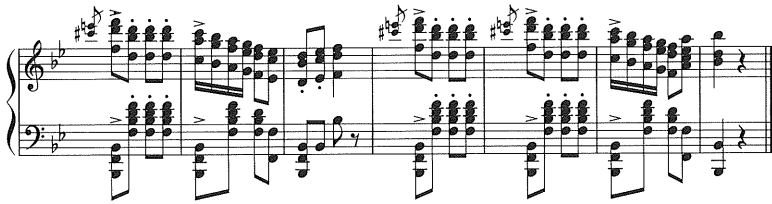
3.2. 楽譜《ブレーメンの音楽隊》みらい堂編曲

扉ページ

piano：トルコ行進曲のテーマ（第1～16小節）



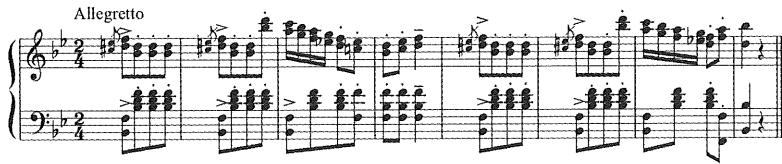
クラシック音楽を用いた絵本の上演2



Vocal : 「グリム童話 ブレーメンのおんがくたい ハンス・フィッシャー
え せた ていじ やく」

p.1-2

piano : トルコ行進曲のテーマ



Vocal : むかし、あるひとが、ろばを一ぴき かっていました。

Cajon : $\# \frac{4}{4}$

Vocal : そのろばは、これまでながいとつき、しんぼうづよく むぎのふくろを すいしゃごやへ はこんでいました。けれども、いまでは からだ
がよわって、だんだん しごとが できなくなってきました。

そこで かいぬしは、もうこれいじょう ろばに えさをやることはないとおもいました。

Piano：運命のテーマ



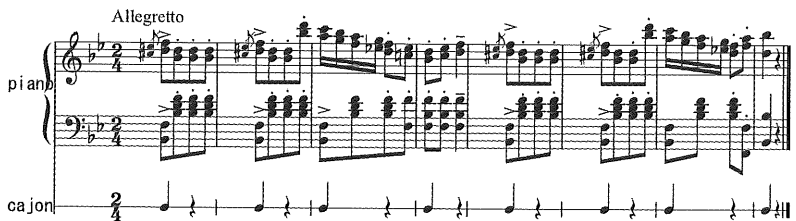
Vocal：するとろばは、かざむきが わるくなったのに きがついて、いえをとびだし、ブレーメンのまちをめざして でかけました。

Piano：ゆっくりと（トルコ行進曲、第28-34小節）




Vocal：そこへいけば、まちのおんがくたいに やとってもらえると おもったからです。

Cajon and piano：（カホンのカウントに続けてピアノが入る）



p.3-4

Vocal：ろばが しばらくいと、一ぴきのりょうけんに あいました。

Toy horn： 

vocal：いぬは みちにおそべて、まるで はしりつかれたように はあはあいきをしていました。

「おい、なんだって そんなに はあはあしているんだ、かみつきやくん」と、ろばは ききました。

「ああ、ああ」と、いぬは こたえました。「ぼくは としをとって、ひましによわり、いまでは りょうにでても、はしれなくなったものだから、かいぬしが ぼくを ぶちころそうとしてるんだ。

Piano：運命のテーマ



vocal：だから、いま にげだして きたんだよ。ところで、これから どうして くらしていったらいいだろうねえ」

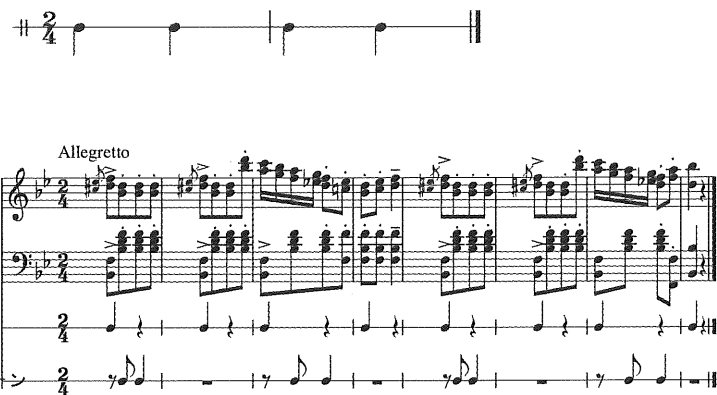
piano：(トルコ行進曲、第28-34小節、短調アレンジ)



Vocal : 「それじゃ、きみ」と、ろばが いいました。「ぼくは ブレーメンのまちの おんがくたいに はいるつもりだが、きみも いっしょにいて、いれてもらったらいいよ。ぼくが たいこをたたく。きみ はらっぱをふきたまえ」 いぬは これにさんせいして、ろばといっしょに でかけました。

Cajon, toy horn and piano : (カホンのカウントに続いて他の楽器も入る)

Cajon :




The image shows three staves of musical notation. The top staff is for the Cajon, showing a simple rhythmic pattern of four quarter notes in 2/4 time. The middle staff is for the piano, marked 'Allegretto', featuring a complex accompaniment with chords and arpeggios in both hands. The bottom staff is for the toy horn, showing a simple melodic line with eighth notes and rests.

p.5-6

Vocal : しばらくいくと、一びきのねこにあいました。

Glockenspiel : (ゆっくりと)



The image shows a single staff of musical notation for the Glockenspiel. It features a simple melodic line with a long note followed by a shorter note, both in 4/4 time.

Vocal : ねこは みちはばたにすわって、あめが みっかもふりつづいたような、 なさけない かおをしていました。「よう、なにを そんなに ふさいでいるんだね、ひげふきはあさん」と、ろばが ききました。「じぶんのいのちがあぶないというのに、だれが うきうきして いられるものかね」と、ねこが こたえました。「じつは、わたしは としをとってはがよくなり、ねずみをおいかけるよりは、すと一ぶのうしろにすわって、のどをど

Allegretto

piano

cajon

トイフォン

グロッケ

p.7-8

Vocal : やがて、この三ぐみが あるやしきのそばを とおりますと、一わのおんどりが もんのうえにとまって、こえをかぎりに ないていました。

Andes :

vocal : 「おいおい、きみのなきごえは、ほねのずいまで ひびくなあ。いったい どうしたんだね。」と、ろばが たずねました。

「きょうは、いいおてんきになると しらせたのだよ」と、おんどりが こたえました。「きょうは マリアさまのひで、マリアさまが おさなご イエスさまの はだぎを せたくして かわかそうと なさるひなんだからね。ところが、あすのにちようびには、このうちに おきやくさまが たくさん やってくる。そして、ねえ ひどいじゃないか。このわたしを すーぶにしると おかみさんが りょうりばんに いいつけたんだ。こんばん わたしは くびを ちょんぎられてしまう。

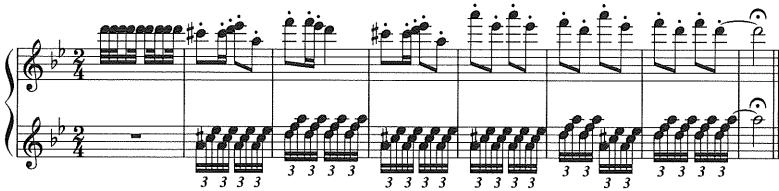
クラシック音楽を用いた絵本の上演2

Piano：運命のテーマ



Vocal：だから、こうして なけるうちに、のどをふりしぼって ないているのさ」

Piano：トルコ行進曲（短調版、第28-34小節）



Vocal：「それじゃ、あかあたまくん、ぼくたちといっしょに いこうじゃないか。ぼくたちはみな、ブレーメンへ いくところなんだ。どこにだって、しぬよりましなことなら ころがってるさ。きみは いいこえをしているし、ぼくたちがいっしょに おんがくをやれば、すばらしいものになるよ」

Cajon, Piano, Toy horn and Andes：(カホンのカウントに続けて他の楽器も入る)



Allegretto

piano

cajon

トイフォン

グロッケ

The image shows a musical score for a piece titled 'Allegretto'. It features five staves. The top staff is for piano, with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The tempo is marked 'Allegretto'. The second staff is for cajon, with a 2/4 time signature and a series of quarter notes. The third staff is for timpani (トイフォン), with a 2/4 time signature and a series of quarter notes. The fourth staff is for Glockenspiel (グロッケ), with a treble clef and a key signature of one flat. The fifth staff is a lower staff, possibly for a second piano part or a different instrument, with a treble clef and a key signature of one flat. The score includes various musical notations such as chords, beams, and rests.

p.9-10

Andes and piano : スプリングソナタ 第1-25小節

The image shows a musical score for 'Andes and piano' from 'Spring Sonata', measures 1-25. It features two systems of staves. The first system has a treble clef staff with a 4/4 time signature and a key signature of one flat, and a grand staff (treble and bass clefs) with a 4/4 time signature and a key signature of one flat. The second system also has a treble clef staff with a 4/4 time signature and a key signature of one flat, and a grand staff with a 4/4 time signature and a key signature of one flat. The score includes various musical notations such as beams, slurs, and rests.

Vocal: けれども おんどりは、きのてっぺんに とびあがりました。そこが
いちばん あんぜんだと おもったのです。



Vocal: それから おんどりは、ねむるまえに もう一ど、四ほうを ながめ
ました。すると、ぼつんと一つ、あかりがみえます。そこで なかまたち
に、あかりがみえるから、あまりとおくないところに いえがあるにちが
いと、おしえました。

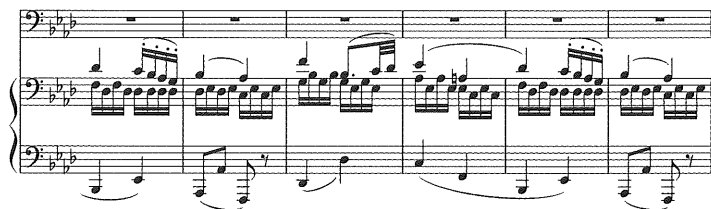
「じゃ、いってみよう。ここは いごちが よくないからねえ」と、ろば
がいました。

いぬは、「そこに にくのついている ほねが、二、三ぼんあつたら なお
いがなあ」と いました。

vocal: みんなであかりのみえるほうへむかっていきますと、



vocal: あかりは だんだん あかるくなり、だんだん おおきくなりました。そしてとうとう、こうこうと



クラシック音楽を用いた絵本の上演2

vocal:あかりをともしたいえにつきました。それはどろぼうのいえでした。

The first system of the musical score consists of two staves. The top staff is for Violin (Vic.) and the bottom staff is for Piano (Pno.). The key signature has two flats (B-flat and E-flat), and the time signature is 3/4. The piano part features a complex rhythmic pattern with triplets and sixteenth notes. The violin part has a melodic line with some grace notes.

The second system of the musical score continues the two-staff format. The piano part has a more rhythmic, repetitive pattern. The violin part continues its melodic line with some rests.

p.13-14

Vocal: いちばん からだのおおきな ろばが、まどに ちかよって なかを のぞきました。

p.15-16

Vocal: 「なにか みえるかい、あしげくん」と、おんどりが たずねました。


「なにか みえるかーだって」 ろばが こたえました。「すてきな たべものや のみものが ならんでい てーぶるに、どろぼうたちが ずらりすわって、ごきげんで たべてるんだ」

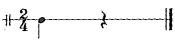
「それが わたしたちのものだったらなあ」と、おんどりが いいました。

「そうとも そうとも。みんなで あそこに いきたいなあ」と、ろばがいいました。そこで みんなは、どろぼうを どうやって おっぱらったら いい

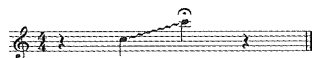
疇地 希美・嶋田 ひろみ・山本 八千代・吉村 雅美

だろうと そうだんして、とうとう いいことを おもいつきました。

ろばが まず まどに まえあしをかける。Cajon : 

Vocal : いぬが ろばのせなかに とびのる。Toy horn : 

Vocal : ねこが いぬのせなかに よじのぼる。Glockenspiel : 素早く



Vocal : そして さいごに、おんどりが とびあがって ねこのあたまに とまる、と いうのです。

Andes : 

Vocal : さて、こういう かたちになってから、あいずといっしょに いちどにおんがくを はじめました。ろばは ひんひん、Cajon :




Vocal : いぬは わんわん、Toy horn : 

Vocal : ねこは にゃあにゃあ、Glockenspiel : 素早く



クラシック音楽を用いた絵本の上演2

Vocal：おんどりは こけこっこう。Andes： 

Vocal：こう さけびながら、まどから へやのなかへ くだれこみました。

All instruments：ad. lib.(それぞれの動物のリズム形をもとにアレンジする)

Vocal：まどがらすが がらがらがらと われました。All instruments：ad. lib. (騒々しく)

p.17-18

Vocal：どろぼうたちは、この ものすごい さけびごえをきいて とびあがり、ばけものが きたのだと おもって、びっくりぎょうてん、もりのなかへ にげていきました。

Piano：ピアノソナタ第14番《月光》第3楽章 冒頭8小節

252

Presto agitato



(C.F. Peters, n.d.(ca.1910).

URL:http://conquest.imslp.info/files/imglnks/using/1/10/IMSLP32718-PMLP01458-Beethoven_Sonaten_Piano_Band1_Peters_9452_14_Op27_No2_1200dpi.pdf, p.252より改編)

Andes：交響曲第9番 第4楽章 Allegro assai



Vocal：こちら 四にんのなかまたちは、てーぶるについて、のこりもののごちそうを たべること たべること。このさき 一つき たべないでいてもいいくらい、どっさり たべました。

クラシック音楽を用いた絵本の上演2

Piano、Andes、cajon、toy horn、 and glockenspiel : 交響曲第9番 第4楽章

The musical score is arranged in two systems. The first system includes five staves: Andes (melody), Glockenspiel (melody), Piano (harmony), Cajon (rhythm), and Bass Drum (rhythm). The second system includes three staves: Glk. (melody), Pno. (harmony), and B. Dr. (rhythm). The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 4/4. The score features a mix of melodic lines, harmonic accompaniment, and rhythmic patterns.

Glk.

Pno.

B. Dr.

p.19-20

Vocal : 四にんの おんがくかたちは、ごはんがすむと あかりをけて、
めいめいに すきなねどこを さがしました。

p.21-22

Vocal : ろばは、にわの わらのやまのうえに、Cajon : $\sharp \frac{2}{4}$

Vocal : いぬは とのかげに、Toy horn : $\sharp \frac{2}{4}$

Vocal : ねこは かまどの あたたかいはいのなかに うずくまり、

Glockenspiel :

クラシック音楽を用いた絵本の上演2

Vocal：おんどりは やねのうえに とまりました。Andes：



Vocal：そして、みんな たびのつかれで、まもなく ぐっすりと ねむりました。

Piano, and glockenspiel：悲愴 第2楽章冒頭 (adagio cantabile 第1-8小節)

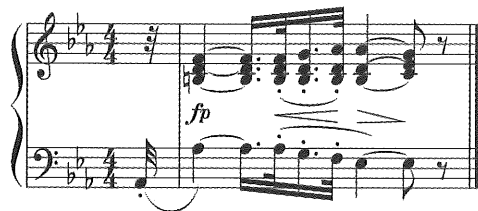
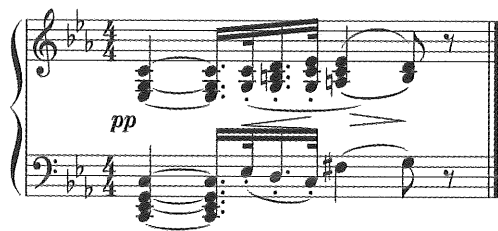
Vocal：さて、まよなかもすぎたころ、にげだした どろぼうたちは、ようやく いえのあかりが きえ、おとも しずまったのに きがつかしました。

おやぶんは、「あんなに あわをくうのでは なかったわい」と 言って、てしたをひとりえらびだして、いえをさぐりに やりました。

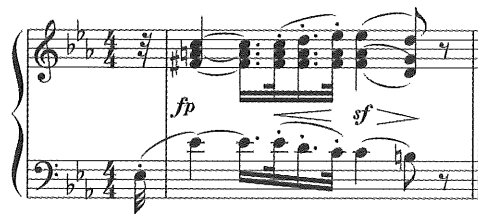
でかけた てしたは、いえじゅう ひっそりしているので、だいどころには 言って、あかりを つけようと思いました。

曙 地 希 美・嶋 田 ひろみ・山 本 八千代・吉 村 雅 美

Piano :



Vocal : そして、ぎらぎらひかる ねこのめを Piano :

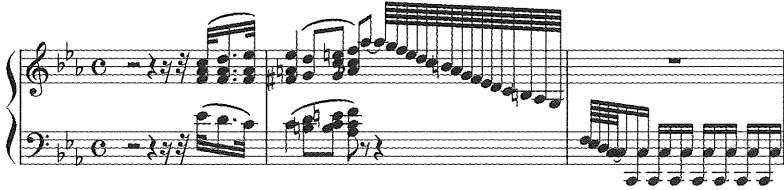


Vocal : もえているせきたんと まちがえて、Piano :

クラシック音楽を用いた絵本の上演 2

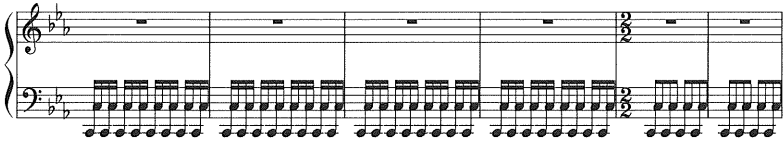
Vocal : うっかり そのめに つげぎを つけてしまいました。

Piano :



p.23-24

piano : 悲愴 第1楽章 第2テーマ 左手のみ通奏低音 (vocal、その他の楽器とあわせてしばらく続ける)



glockenspiel : 素早く



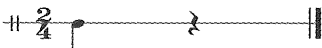
piano :



躰地 希美・嶋田 ひろみ・山本 八千代・吉村 雅美

vocal: うらぐちからにげだそうとしました。ところが そこにねていたいぬがとびおきて、ぼっくりあしにかみつきました。



toy horn : 

piano :



vocal: わらのやまのそばを かけぬけようとしたが、ろばがうしろあしで、ちからいっぱい けとばしました。



cajon : 

piano :

クラシック音楽を用いた絵本の上演2

vocal: そのうえ、このさわぎで

vocal: めをさしましたおんどりが やねのうえから、「コケコッコー！」となきました。

Andes :

piano :

vocal: だろぼうはむがむちゅうで

F.O.

Vocal : おやぶんのところへ にげもどって こうはなしました。

「いやはや、あのいえには おそろしい あくまのばあさんが いますよ。そいつが わたしに いきをふきかけ、ながいゆびで かおを かきむしりました。また とぐちには、ないふをもった おとこがいて、わたしのあしを さしましたよ。それに、にわには まっくろけのおばけが ねていて、こんぼうで なぐりつけたんです。おまけに、やねのうえには さいばんかんがいて、『だろぼうを つれてこい』と、どなるんです。それで わたしは、むがむちゅうで にげてきましたのさ」

p.25-26

Piano :

Allegretto

Musical score for Piano, marked Allegretto, in 2/4 time. The score consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The music features a complex, rhythmic accompaniment with many chords and moving lines.

Vocal : これからさき、どろぼうたちは 二どと このいえに よりつこうと
しませんでした。そして 四にんの おんがくかたちは、ここが たいそうき
にいて、二どと このいえを はなれようとしませんでした。

このおはなしは きいたばかり、ゆげが ほやほやなんですよ。

All instruments : トルコ行進曲

Allegretto

Musical score for All instruments, marked Allegretto, in 2/4 time. The score consists of five staves: piano, cajon, トイフォン (Toyfon), グロック (Glockenspiel), and a fifth staff. The piano part is complex, while the other instruments play simpler, rhythmic patterns.

p.27

終

4. アンケート結果と考察

アンケートは絵本の音楽会が終わった直後にアンケート用紙を配布・回収する形で行った。当日の来場者は50人を超える程度で、そのうち30人から用紙を回収することができた。会場には高齢者だけではなく、小学生や乳幼児を連れた親子連れの姿も2組見られた。

アンケート回答者の年代は30代1人(4%)、40代3人(11%)、50代5人(17%)、60代5人(17%)、70代5人(17%)、80代以上7人(24%)、未回答4人(10%)であった。性別は男性11人(38%)、女性14人(48%)、未回答5人(14%)であった。

「ブレーメンの音楽隊のお話と演奏はどうでしたか?との設問に対して、面白かった25人(83%)、まあまあ4人(13%)、未回答1人(3%)の回答があった。また、絵本に音楽が合っていると感じた人は全体の89%であった。自由記述における個々の感想については以下に記す。

- ・お話しと生の演奏が聞けて良かったです。ありがとうございました。
- ・絵本と音楽の結び付がとても新鮮で楽しかったです。
- ・ライブ感のある朗読劇 ミュージカルのようでした!
- ・とつてもすばらしい曲がきけてよかったです
- ・生の演奏と絵本、すばらしいと感じました。孫と一緒にききたいと思いました(孫にきかせたい)
- ・また聴かせてください!!
- ・すごく楽しかった。ワクワクするような感じですごくよかったです。
- ・少し長い
- ・音楽と絵本を合わせて楽しかった
- ・すばらしい演奏でした。ありがとうございます。
- ・音楽を入れた読み聞かせをはじめて体験しました。とても良かったと思います

ます。子供たちの反応も知りたいと思います。

- ・久しぶりに童心に返った気分でとても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・楽しかった
- ・大変楽しく聞かせていただきました。
- ・擬音の面白さと、ピアノの演奏がすばらしかった。久しぶりに子どもの心（童心）にかえりました！
- ・高級すぎて・・・・

（下線は筆者による）

アンケートの回答からは、大多数の観客に音楽を用いた絵本の上演が肯定的に受け止められたことが伺えた。自由記述にもポジティブな感想がほとんどであった。「童心にかえた」「子供たちの反応も知りたい」「孫と一緒にききたい」（筆者による下線部分）など、子どもというキーワードを含む回答が4つあった。「音楽と絵本を合わせて楽しかった」「音楽を入れた読み聞かせをはじめて体験しました。とても良かったと思います。」など音楽と絵本の組み合わせに対する肯定的な記述が5つあった。また、演奏に対する賞賛の記述が3つあった。

しかし、「高級すぎて・・・・」「少し長い」との意見もあった。20分の上演時間はクラシック音楽の演奏は大人であっても長く感じられたようである。

5. おわりに

これまで子ども向けに上演してきた絵本の音楽会だが、大人の鑑賞にも十分耐え得るものであることが明らかになった。今回は20分を超える作品となり、言葉がなく音楽のみの部分も長めであったが、観客が集中して聴き

入っている様子が見られた。

アンケート結果だけでなく、会場を去る際の観客からも直接演奏者へ好意的な感想が寄せられた。絵本は子ども向けという概念があったが、成人、特に高齢者にとっては童心に返るといった感覚があることも明らかになった。そこへ音楽を組み合わせるという新しい体験をすることによって、懐古と新鮮さという2つの感覚が生まれ、子どもが感じるものとはまた違った楽しみ方があるように見受けられた。

しかし今回用いた福音館書店の『ブレーメンの音楽隊』は今までの子供向け絵本と違い、場面の全てにおいて絵が付いているわけではなく、複数の場面を一枚の絵で表現している箇所もあった。その為、場面転換を音楽のみによって表さなければならない場合もあり、物語を理解しやすく、なおかつ心訴えかける作品づくりに苦心した。この点については次回以降の音楽と絵本選びの課題としたい。

参考文献

疇地希美・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村雅美（2018）クラシック音楽を用いた絵本の上演—絵本の音楽会より『スイミー』—。中部大学現代教育学部紀要第10号。pp.105-112.

嶋田ひろみ・疇地希美・児玉珠美（2013）絵本読み聞かせにおけるピアノ伴奏の効果～0歳児に焦点を当てて～。日本保育学会第67回大会口頭発表要旨

ing設立25周年ingハウスここから4周年お祝いと感謝の集い、npoing.web.fc2.com/2018kokokara.pdf、閲覧日 2018年6月13日

参考楽譜

《トルコ行進曲》：ピアノで弾く名曲50（2000）ヤマハミュージックメディア

《スプリングソナタ》：Breitkopf und Härtel, n.d.[1863].

URL:http://conquest.imslp.info/files/imglnks/usimg/9/9f/IMSLP51962-PMLP10431-Beethoven_Werke_Breitkopf_Serie_12_No_96_Op_24.pdf

ピアノソナタ第8番《悲愴》第1楽章：RSB, 2012.

URL:http://conquest.imslp.info/files/imglnks/usimg/a/a6/IMSLP215109-PMLP01410-Beethoven_Pathetique_Mvt_1.pdf

ピアノソナタ第8番《悲愴》第2楽章：New York: Firth, Pond & Co., 1857. Plate 4163.

URL:<http://conquest.imslp.info/files/imglnks/usimg/8/8e/IMSLP195385-PMLP01410-BeethovenAdagiocantab13edBerg.pdf>

ピアノソナタ第14番《月光》第3楽章：C.F. Peters, n.d.(ca.1910).

URL:http://conquest.imslp.info/files/imglnks/usimg/1/10/IMSLP32718-PMLP01458-Beethoven_Sonaten_Piano_Band1_Peters_9452_14_Op27_No2_1200dpi.pdf

(URL最終閲覧日：2018年7月9日)

※ 「『同朋福祉』に関する内規」により「実践報告」として査読済み

疇地 希美（本学講師：保育内容（音楽表現の指導法））

嶋田ひろみ（本学非常勤講師：音楽Ⅱ）

山本八千代（中部大学：保育内容研究（音楽表現））

吉村 雅美（中部大学：保育音楽表現技術）